

# Pole Pole ケニア通信

2025.1



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

こんにちは！今回は、私の活動に関連して、ケニアにおける【ごみ処理の現状】についてお伝えします。

## ケニアのごみ処理の現状

私は環境教育隊員としてケニアに派遣されています。「環境教育」という職種を簡単に説明すると、持続可能な社会のために、環境問題や環境保護に対する意識をその国の人たちに根付かせ、向上させていくことが活動の目的です。私の配属先の場合、扱うのは主に「ごみ問題」です。発展途上国では、日々の暮らしを安定させることがまず第一であるため、自分たちの生活が環境にどのように影響を与えるのかまで、なかなか考えが及びません。

日本では、私たちはごみを分別して捨て、リサイクルできるものはリサイクルします。ごみは決められた曜日に収集場所に持っていくと、収集車が毎週のように回収してくれます。ごみはごみ処理場で、安全に処理されます。このような「日本の当たり前」は、ケニアにはありません。ごみを回収するシステムはほとんどないため、ごみは分別せずにひとまとめにして、家庭や道端で燃やして終わります。ごみが回収されたとしても「ダンプサイト」と呼ばれる巨大なごみ捨て場に運ばれるだけです。リサイクルの会社は首都のナイロビにしかありません。日本では小学校でごみ処理やリサイクルについて学びますが、ケニアではそのようなことはありません。大人も子どもも、ごみをポイ捨てる人がとても多く、それが環境に悪いことだと知りません。乗り合いバスの窓から、空き缶やお菓子のごみを外に捨てる人を目に見ると、心が痛みます。配属先の同僚にそのことを話すと「悪いことだと知らないからだよ」と言います。同僚たちは大学で環境について学んでいるため、それが良くないことだと知っています。つまり、ケニアでは大学で専門的に学ばないと、そのような情報に触れる機会がまだあまりないのです。

①



②



③



④



- ① ごみ捨て場のようにになっている空地。このような場所がたくさんある
- ② 道路のすぐ脇にごみが捨てられている
- ③ 掃除した後、洗剤を含む水はそのまま地面に流してしまう
- ④ 私の住む場所のごみ収集場所。収集場所が他と区別されてあるだけ良いが、分別はされていない

近年、ケニアでは環境への影響が重要視されつつあり、少しずつですが環境保護に関する法が成立し、持続可能な社会に向けた取り組みが注目されています。それは、ケニア全体がある程度発展してきたため、環境に対して意識が向き始めたということでもあります。しかし、人々の意識を変えていくのはとても時間のかかることで、すぐに成果は見えません。それでも、よりよい未来のために、地域住民に対して意識向上の手助けをするのが、JICA ボランティアの役割です。

